

# 東舞子

2017/05/1 (5月号)  
神戸市立東舞子小学校  
平成29年度学校だより  
<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

## なぜ仕事をするのか～トライやるウィークから～

苔谷公園横の遊歩道を歩いていると、つい先日までは、桜の花が満開でしたが、新緑の季節を迎え、桜の木の枝も、すっかり葉桜に一変していました。取って代わるように、平戸つつじの鮮やかなピンクの花弁が一面に咲き揃っています。

さて、新年度がスタートして3週間程が経ち、子供たちは、新しい学年、学級に少しずつ馴染んできたようです。各教室の様子を見て回りましたが、どの教室からも、子供たちの活気に溢れた明るく元気な姿と笑顔を見ることができ、それぞれの学級で良いスタートが切れたことを嬉しく思いました。

話は変わりますが、キャリア教育という言葉を目にしたことがありますか？キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義づけられています。(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について[答申]」H23.1.31より)さらに、キャリアという言葉の意味するところについて、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と説明しています。実は、すでにご存知の通り、兵庫県下の公立中学校で実施されている「トライやるウィーク」がこれに該当します。トライやるウィークが始まったきっかけは、今からちょうど20年前に、神戸で連続児童殺傷事件が起き、当時の子供たちの置かれている状況や学校教育の課題について集中審議がなされた末に、中学生の「長期体験学習」が提起され、地域や企業、家庭、学校も含めた行政機関が連携して実施するに至った経緯があります。

本校でも、トライやるウィークの事業所の一つとして、毎年、校区の中学生を何人か受け入れています。昨年度、東舞子小学校でトライやるウィークを終えた生徒が、このような感想を述べていたので紹介します。

私は、1週間、東舞子小学校に行きました。自分が通っていた小学校だったので、とても懐かしかったです。初日、私は1年生の担当でした。1年生は、すごく可愛かったです。私が行ったら、いっぱい話しかけてくれたり、寄ってきてくれたりして嬉しかったです。「お姉ちゃんの好きな食べ物は何？」って聞いてくれた子がいて、その子につられて他の子もたくさん質問してくれました。子供たちに囲まれているとき、とても嬉しかったです。休み時間は、外で鬼ごっこをして遊びました。でも、先生という仕事は、とても大変そうでした。1年生は特に、思ったことを全て口に出して話すので、まったく静かになりません。一度静かになったと思っても、すぐ騒がしくなるので、それを止める先生はとても大変そうでした。5日間で、先生たちが注意しているところを何度も目にしました。「この子はできる子。だから、私は叱るんだよ。」とみんなの前で言っていました。それを聞いたとき、私は先生が叱る理由が分かったような気がしました。もちろん、悪いことをしたら叱られるのは当たり前だけど、それ以外のことで、ちゃんとできるようになってほしいから叱るんだと思いました。先生という仕事は、授業を教えるだけではなく、生徒の見えない所でいろんなことをしていました。子供たちと楽しく話しているときもあるけど、夜遅くまで、職員室で仕事をしている姿を見て、すごいと思いました。それも、全て子供たちのためです。5日間だけでしたが、仕事の大変さがよく分かりました。

自分の目指す職業にたどり着くまで、近道はないと思いますが、中途半端なところで妥協せず、難しくても自分の可能性を信じて、限界に挑戦してほしいと思います。なぜなら、一度しかない人生なのですから…。

校長 梅鉢 泰博